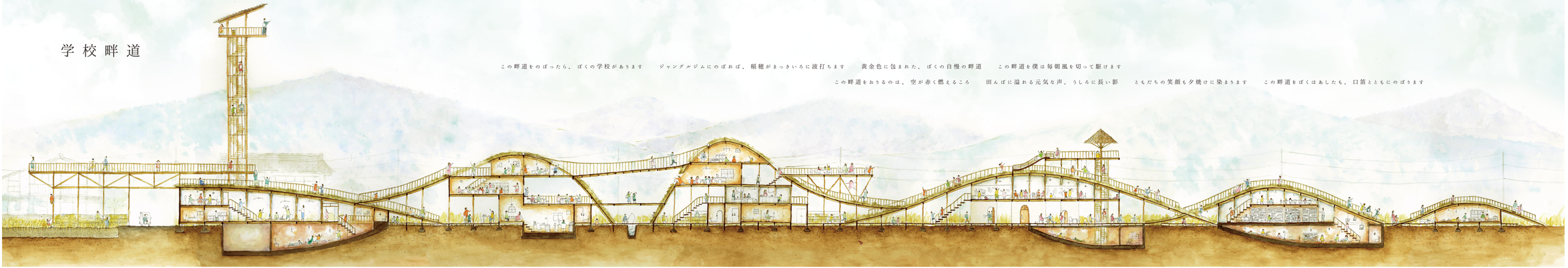
学校畔道

この畔道をのぼったら、ぼくの学校があります　ジャングルジムにのぼれば、稲穂がまっきいろに波打ちます　黄金色に包まれた、ぼくの自慢の畔道　この畔道を僕は毎朝風を切って駆けます

この畔道をおりるのは、空が赤く燃えるころ　田んぼに溢れる元気な声、うしろに長い影　ともだちの笑顔も夕焼けに染まります　この畔道をぼくはあしたも、口笛とともにのぼります

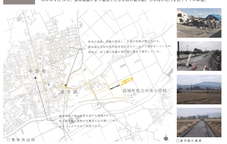


00

小学校から新ーすぐのびる畔道。教室には通ばかりがやすく、小学校と地域をむすぶ。
そんな学校計画を目的に掲げ、設計をしました。児童たちがこれから学び育つ場である、生活の場である、遊び、

01. 敷地

海水浴と温城酒造地域。
2010年4月1日、隣市南部による新市と小学校の誕生前、小学校の正門を出ですぐの畔道。



02. 問題

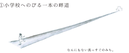
補足に伴う、家庭環境や生活状況の急激な変化による、活動の制約等発生。
地震の復興による、海が子を遮断に新しくさらに子供たちでとりい離たち、ごとうたちとこの時に思者たちが構えた。また、コンクリ工の建築によって、本来人々の交通が増えていった。しかのべて、農業業や、漁の日（新しい時）に小学校が安全な交通事故が必要である。
対象敷地の温城市北小学校では、建設後、小学校の1期目の学生数は生徒1〇人が、現在は新しい時に増加している。また、学生は1〇〇名ほどの生徒を対象としてきた。そのうちの交通を安全にと近隣地の交通である。

03. 設計趣旨

通学路の選択に、児童たちの活動場を創造する。建築と自然とみちが一体化し、内外の関係性。
①児童たち家の通り道で、のびのびとした、開放を通り抜ける。
また、地域の人々が日常的に集まってた、農作業をおこなうアトリエを設け、子供と交流する場を設けます。児童たちが学び育つ場である、生活の場である、遊び方を「畔道」は児童たちと地域の人々が活動場となり、創造的な関係を作り。

04-1. 畔のはなし　～畔道について～

①小学校へのびる一本の畔道



②畔道に起伏をつける

③畔道をふくらませたり、へこましたりする

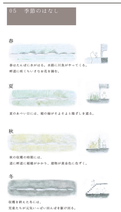
④畔道を重ねる

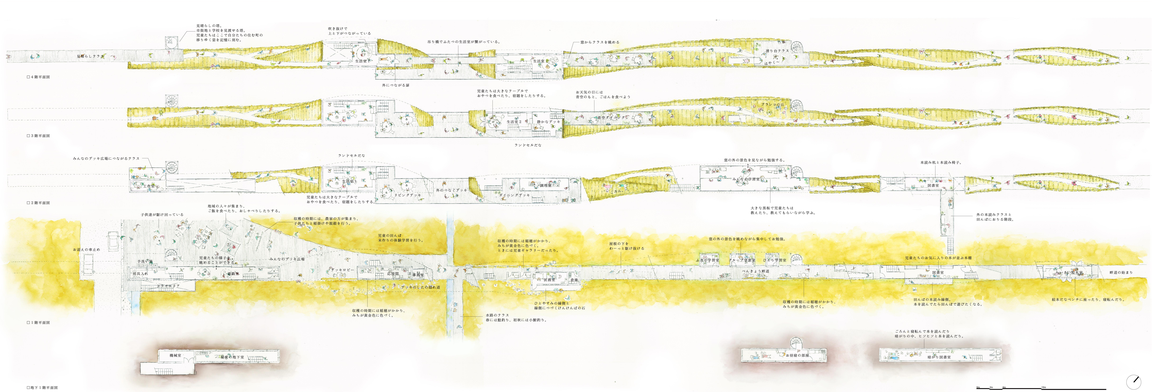
⑤畔道は児童の計画となり、居場所となる

04-2. 畔のはなし　～起伏について～

児童たちの成長とともに、空間の様子が少しずつ変化する。
よく動かを動き通ったとき、自分の成長を感じた。

05. 学校のはなし




温城しろ川。
小学校へ学びを支援する。
地域の人々の交流の場。
畔を通ってアトリエへ。
畔は小学校へのびている。
畔と畔がつながっている。
畔と畔がふくらんでいる。
畔の上にアトリエを構える。
畔にちょうちょ
大空間
畔にちょうちょ
児童たちはアトリエ
畔で一生懸命。
畔にちょうちょ
畔にちょうちょ
水天宮の日に
畔祭りをし、「こんにゃ畔ーよよ」
4期平面図
畔にちょうちょ
畔にちょうちょ
3期平面図
ランドセルのなり
みんなのアトリエ広場にへらがはアトリエ
ランドセルのなり
畔の外の部分を安らかな場所する。
本道外地と本道外地で。
3期平面図
地域の人々が集まり、
「農作業をおこなう」の場をとらえます。
児童たちのなりたち
畔の中を通ってアトリエ
畔の中を通ってアトリエ
畔の中を通ってアトリエ
畔の中を通ってアトリエ
子供達が遊び回っている。
大きな規模で児童たちは
教えたり、教えてもらいながら学ぶ。
畔の木道はアクセス
のびのびした場所。
本道人の畔道が
畔の中を通ってアトリエ
畔の中を通ってアトリエ
畔の中を通ってアトリエ
畔の中を通ってアトリエ